

ゆめ わらわ 夢 亭

菅波 茂

2012年10月13日に沖繩平和賞歴代団体代表者6名と沖繩県内中高校生6名によるシンポジウムが開催された。テーマは「平和について」。高校生から鋭い質問が出た。「沖繩の基地をどう思うか」と。「国際政治では日本と中国が争った時に誰が得をするのか。ここが大切である。いずれ中国の軍事的脅威に対して沖繩の基地の必要性が叫ばれるようになる。日本と中国の対立が深まった時に誰が止め役になるのか。米国と言われている。が、私は日本の心

と中国の心がわかる沖繩に止め役になって欲しい。本当に日本が沖繩を必要とする時である」と答えた。

2004年10月にAMDAは第二回沖繩平和賞を受賞。同年12月26日にスマトラ沖地震・津波が発生。死者は30万人以上。被災者は天文学的数字だった。インドネシアのアチェ州、インドのタミルナドゥ州そしてスリランカの北東部に12万国から百人以上のスタッフを救援活動に派遣。AMDA設立20年目だった。副賞である1000万円を

沖繩平和賞シンポジウム

地元の方とオキナワポリビア歴史資料館前で



初動の資金として活用した。沖繩の貴重なお金である。この紙面を借りてあらためて感謝を申し上げたい。

沖繩県は日本で唯一の血縁共同体だと思っっている。国内の新聞の訃報広告が3行。沖繩の新聞では30行。30行広告は死者の血縁関係者の名前が列記してある。血縁関係者は葬式には必ず来るよう

にと強制力を感じる。沖繩県は海外移民を大切にす。4年ごとにウチナチュウ大会を開催。各国から沖繩系移民が沖繩に集い交流を深める。国ごとに親善大使が任命されている。日本を取り巻くアジアの国々はすべて血縁共同体社会。価値観の違いは大きい。アジアと価値観を共にできる沖繩県の日本外交における比重は大きい。外務副大臣を増やして、1名は従来の政治家出身で欧米外交、1名は沖繩県からの派遣でアジア外交に関与することを提言したい。

2005年11月。南米のポリビアの旧首都サンタクルスでAMDAアメリカリーグ会議を開催。日本、カナダ、ペルー、ホンジュラス、そしてポリビア支部の代表が参加。テーマは「コミュニティ薬局」。コミュニティに薬剤共同購入と販売する薬局を設置し、保健衛生と薬剤の知識の講習を修了したスタッフが運営。貧しい農民には福音である。AMDAのホンジュラスでの成功例である。サンタクルス市郊外には太平洋戦争敗戦後に農地を米軍基地にされて「琉球政府計画移民」として集団移住した開拓者の施設であるコロニア・オキナワセンターがある。開拓の歴史資料館、宿泊施設、診療所などの施設が整備されている。日本人移住者とその子孫が様々な困難を克服して開拓したコロニア・オキナワは、ポリビア共和国内の模範的な農村行政区となっている。JICAの沖繩県移住者支援も終わり同センターは一つの役割を終えた。2014年は日本・ポリビア友好百周年。コロニア・オキナワセンターを中南米の「コミュニティ薬局」研修センターとして再生することを提案したい。中南米の勤勉と正直で社会的信用の高い沖繩系移民の存在は日本の財産である。中南米の大災害には必ず医療スタッフを派遣するAMDA沖繩県支部も頼れる存在である。JICAと連携して、中南米における市民参加型人道支援外交のモデルになることを期待したい。

(AMDAグループ代表)